

# 事例紹介

親族内承継



概要

**廃業・第三者承継検討から一転。親から子への親族内承継へ**

対象企業：東洋ビニール株式会社（大阪府八尾市）

事業内容：塩ビチューブなどの部材となる「塩化ビニールコンパウンド」を製造・販売  
大手化学メーカーとも取引を有するニッチトップメーカー

承継方法：親族内承継

現経営者：重岡健司 氏 後継者：重岡昌実 氏（現社長の息子）

引継時期：2030年

經緯

## 【当センターの直接支援（三次対応）開始】

- 現社長は61歳となり、会社を今後どうするのかを考えるようになっていた。
  - 現経営者は、ご自身の体験から事業承継を受ける側の苦労をよく理解されている故に、事業承継の話を自ら息子へ持ち出せないでいた。
  - 大阪商工会議所が実施している「事業承継に関するアンケート」をもとにセンター担当者が相談対応。

#### 【当センターの具体的支援内容】

- まず、息子の意思を確認したことないことから、息子を含めた三者面談を実施してみると覚悟は既にしているとの回答であり、親族内承継の方向性で決定。
  - 外部専門家を派遣し、事業承継計画書を策定・合意。
  - 現社長からは、「もし、息子と直接話すことを勧めてもうえなければ、おそらく行き当たりばったりで息子に迷惑をかけることになっていたため、よかったです」とのこと。

## 当センターの支援ポイント

- 事業承継の方向性の整理
  - コミュニケーションの潤滑剤
  - 外部専門家とともに策定する事業承継計画書

ステップ 1

現社長の想いを踏まえて、今後の事業承継の方向性を決定。



面談風景（左：現社長／右：後継者）

ステップ2

決定した事業承継の方向性に合わせて、専門家と事業承継計画を策定。



写真：大内診断士

事業承継計画書（一部抜粋）

ステップ3

## 専門家が策定した事業承継計画書の最終報告会。



### 工場（左：現社長／右：後継者）

## 【現社長のコメント】

悩んで立ち止まっていましたが、客観的な意見を聞けたことや計画作りのように最後の一押しをしてもらえたことは非常に助かりました。

